

## 大型クルーズ船続々入港

「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」「スカイシー・ゴールデン・エラ」初入港



▲基隆港へ向け出港するボイジャー・オブ・ザ・シーズ



▲入港したスカイシー・ゴールデン・エラ

6月29日、アメリカのロイヤル・カリビアン・インターナショナルが運航する客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」が八代港へ初寄港し、約2500人の乗客が訪れました。

同客船は全長310m、乗客定員3286人、総トン数13.8万トンです。

6月26日に台湾の基隆港を出港後、長崎港を経て八代港に入港しました。乗客は下船後ツアーバス52台に乗り込み、八代市内をはじめ熊本城や阿蘇を巡る観光を楽しみました。

同日の午後6時から行われた出航セレモニーでは、中村博生市長が「再び八代へお越しただけたら大変うれしく思います」とあいさつ。秀岳館高校雅太鼓部による力強い演奏と市民が見送る中、同客船は基隆港へ向け出港しました。

同客船は7月6日にも入港。今後8月29日にも寄港する予定です。

6月14日、豪華客船「スカイシー・ゴールデン・エラ」(総トン数71545t、全長246m)が八代港に初寄港し、中国から約1400人の乗客が訪れました。

岸壁では関係者らによる入港セレモニーが開催され、中村博生市長が「古来より中国大陸との交流がある本市は、この歴史を観光振興策の1つとして、積極的に客船の誘致を勧め八代港の活性化に努力しているところです」とあいさつ。

傳開明チャーター主などへ花束や記念品などを贈り、チャーター主からは記念の楯が贈られました。

乗客は、熊本城の見学や市内ショッピングセンターでの買い物などを楽しみました。

夕刻、出港セレモニーが開催され、くまモンによる見送りや秀岳館高校雅太鼓部による力強い演奏を受け、韓国の濟州島へ向け出港しました。

## 市内施設などを視察 台湾基隆市政府団が来代



▲八代共同魚市場で説明を聞く訪問団

6月22日、中村博生市長が視察などを通じて交流してきた台湾基隆市の林右昌市長や宋璋莉議長、姉妹都市促進会主任委員など約40人が来代しました。

同市は本市への理解を深めるとともに、両市が有する港湾の交流をはじめ、物・人的往來を強化し、つながりを強めることを目的に訪問。八代港や水処理センター、八代共同魚市場、老人介護施設YKKAP九州製造所を視察しました。

市役所で行われた歓迎セレモニーでは、中村市長が「基隆港と八代港を窓口として人的・経済的交流が更に進展するとともに、今回の訪問が将来にとって両市の強い絆となるよう願っています」とあいさつ。林右昌基隆市長は「八代市を表敬できてうれしく思っています。視察ではさまざまな場所に行くことができ、有意義な時間を過ごすことができました」とお礼を述べました。

## 大型クルーズ船に対応するために 八代港大型クルーズ船受入準備完了報告会



▲しらぬい保育園の園児や関係者らによるテープカット

八代港への大型クルーズ船の受入準備が完了したことに伴い、6月20日、国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所と県による報告会が同港外港地区国際物流ターミナル内で行われ、国会議員や県議会をはじめ、中村博生市長や経済・港湾関係団体など約70人が出席しました。

同事務所から「八代港には大型クルーズ船の寄港要請が多数寄せられているが、10万トンを超える客船を受け入れる環境が整っておらず、早期に整備を行う必要がある。既存の国際物流ターミナルの岸壁を有効利用し、短期間に受入環境を整え、準備を進めてきました」との説明がありました。

16万トン級の客船にも対応できる受入準備が完了したことに伴い、九州中部地区を訪れる外国人観光客が増加することで、観光収益の向上や地域経済の活性化が期待されます。

## 教師としてエチオピアへ JICA 青年海外協力隊



▲表敬に訪れた古山雅子さん

7月から平成29年3月まで、JICA ボランティアで東アフリカに位置するエチオピアに派遣が決まった永碓町の古山雅子さんが6月29日、市役所を訪れ中村博生市長に出発の報告をしました。

これは国際協力機構（JICA）が実施する事業で、①開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与、②友好親善・相互理解の深化、③国際的視野の涵養とボランティア経験の社会還元が主な目的です。

現役の小学校教諭である古山さんは、その経験を生かし、現地で小学校教育の音楽や体育、図工を指導していく予定です。

古山さんは「少しでも力になることがあればやっていきたい。また、帰国後は日本の子どもたちに学んだことを還元したい」と抱負を語りました。

## 木の駅プロジェクト始動

八代農業高校泉分校の生徒が林業体験



▲間伐材を搬入するグリーンライフ科2年生

7月7日、泉町の八代森林組合貯木場で八代農業高校泉分校の生徒14人が「木の駅やちろろゴロタン」への木材出荷体験をしました。

木の駅プロジェクトは、間伐材などを木質バイオマス燃料として活用することで、山の手入れを推進することを目的としています。山中に放置されている木材を集めて、拠点施設である「木の駅やちろろゴロタン」に出荷すると地域通貨券「もり券」と現金を受け取ることが出来ます。

この日は、泉分校から670kgの木材（500円のもり券にして3枚分）が搬入されました。グリーンライフ科2年生の横田和門さんは「将来、林業に従事しようと考えています。山がきれいになると森も元気になる、動物も住みやすく、循環もよくなって共存共栄できると思います」と話しました。

## 笑顔いっぱいの日

八代市いきいきふくレスポーツ大会



▲チームの仲間もボールの行方を見守る「一発必中」

7月4日、市内の福祉関係18団体から約370人が参加し、第10回八代市いきいきふくレスポーツ大会が市総合体育館で行われました。

この大会は、競技などを通じてスポーツを楽しむ、親睦を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的に毎年行われています。

競技は80メートル競走や車いす競走、大玉ころがしリレーのほか、ニューズポーツの用具を使ったレクリエーション性の高い競技など13種目が行われました。

柔らかないすを投げ、直径約1mの輪に通す「はいらん輪」では、ディスクがなかなか思った通りに飛ばずに何度もチャレンジする選手の姿が見られ、周りからは「がんばれ」と声援が送られていました。選手も応援する人もみんな笑顔で競技を楽しんでいました。

## 無病息災を祈願

遙拝神社 茅の輪くぐり



▲ワンちゃんもくぐってお祝い  
▲傘をさしながら直径2m 20cmの茅の輪をくぐる親子

6月30日、遙拝神社で茅の輪くぐりが行われ、雨の中、多くの人が訪れました。

夏越の祓（はら）ともいわれる茅の輪くぐりは、茅でできた大きな輪をくぐって今年前半のけがれを祓うとともに、残り半年の無病息災を祈願する行事です。1年のちようど半分を過ぎた6月30日に行われることが多く、毎年各神社で行われています。

神事の後、参拝者は男女に分かれ、男性は左・右・左の順に、女性は右・左・右の順に8の字を描くように茅の輪をくぐり、無病息災を祈りました。ペット用や車用の茅の輪くぐりも行われました。

豊原中町から愛犬のみるく君と一緒に訪れた清水典子さん、玲奈さんは「毎年来ています。家族の健康を祈願しました」と笑顔で話しました。

この日、茅の輪くぐりは塩屋八幡宮などでも行われました。



### 大相撲八代場所開催決定 尾上親方らが表敬訪問



▲表敬訪問した尾上親方（左）と上月浩事務局長（右）

新市誕生10周年記念「大相撲八代場所」の開催が決定したことに伴い、7月9日、日本相撲協会巡業部の尾上親方と大相撲八代場所実行委員会の上月浩事務局長などが市役所を訪れ、永原辰秋副市長に開催の報告をしました。

同八代場所は、12月9日に市総合体育館で開催予定で、本市で大相撲巡業が開催されるのは21年ぶりです。当日は横綱土俵入りや幕内取組など多彩なイベントが行われます。

尾上親方と上月事務局長は「横綱や大関に昇進した照ノ富士、幕の内人気力士らが勢ぞろいします。間近で迫力ある取組を楽しんでほしい」と呼びかけました。

永原副市長は「大相撲八代場所に向けた力を合わせて頑張りたい」と語りました。

### 手作りみその味は最高 味噌づくり体験



▲大豆がミンチになる瞬間

6月15日～6月17日の3日間、東陽町の東陽農産物加工施設で「味噌づくり体験」が実施されました。同施設は、手作り味噌などの加工食品を製造することができ、この日はたくさん応募の中から、先着10人が味噌づくりを体験しました。

1日目は麦の洗浄から麦の取り込み、2日目は麦(麴)の手入れから麦(麴)に塩を混ぜ、

3日目は大豆の水切りから麦(麴)・大豆の攪拌まで16工程の作業があり、参加者は一つ一つの工程をメモに取りながら丁寧な作業しました。

参加者の鶴田由美子さんは「小さい頃、祖母が作っていたので習っておけばよかったと思います。参加しました。しょうがの味噌漬けを毎年もらっていますが、今度は自分で作ったこの味噌で作ってみようと思います」と話しました。

今回の体験では、1人20kgの手作り味噌を持ちかえることができました。

### 高校生がカウンターを製作 総合窓口用受付カウンター



▲専用オイルを塗装する建設工業科3年の生徒たち（7月15日撮影）

▲自由扉を製作するインテリア科2年の生徒たち（7月14日撮影）

市では、8月3日から各種税証明を市民課の窓口でも交付し、証明書交付のワンストップ化を図る総合窓口を導入します。同窓口を導入するにあたり、市民課が秀岳館高校と八代工業高校に製作を依頼していた受付カウンターが完成しました。カウンターは、高齢者や車椅子の人にも対応した「車椅子対応カウンター」と機能的で迅速な対応ができる「ハイカウンター」の2種類です。

両カウンターには八代市産の材木が利用されており、秀岳館高校建設工業科3年生と八代工業高校インテリア科2年生の生徒たちが授業や放課後の時間を使って製作しました。

同窓口は8月3日に開設予定で、両校の生徒や関係者などが出席し、開所式が行われます。

### 伝統行事を身近に感じる 妙見祭出し物体験教室



▲木馬は思ったより重かった

▲みんなで亀蛇を担ぎました

7月12日、宮地小学校で妙見祭出し物体験教室が行われ、地元小学生や保護者など約150人が参加しました。

これは、子どもたちが伝統行事に参加する機会を広げ、妙見祭の担い手の掘り起こしを目的に八代妙見祭活性化協議会が毎年校区を回って開催しており、今回は宮地小学校とまちづくり協議会みやじの協力を得て行われました。

団体の紹介後に獅子や木馬、笠鉦、流鏝馬の体験やお面作成などが行われました。

今回初めて行われた流鏝馬体験では、小学生たちが大きな弓を操るのに苦戦。上手く矢を放つことに成功した際には、周囲から歓声が上がっていました。

宮地小学校6年の井上真希さんは「地域の宝である妙見祭を、日本だけでなく世界中に発信していきたい」と話しました。